

調査等事項報告（団体名：議会だより編集委員会）

視察先	宮城県宮城郡利府町議会（議会広報常任委員会）
視察日時	令和4年11月9日（水）13時30分～15時まで
視察項目	議会だよりの編集について
視察者	石澤祐一、菊池貞好、田中正信、阿部正任、高橋卯任、柴崎亮太
内 容	<p>1 視察先の概要について 利府町は宮城県のほぼ中央に位置し、仙台市、多賀城市、松島市、塩竈市等と隣接。仙台市の中心部まで車で約30分の通勤、通学圏であり、平成27年度まで新興住宅団地を中心に人口は増加傾向であったが、28年度以降は横ばい。町の木は「榿」、町の花「梨」。同町議会だよりは全国町村議会広報コンクールにて平成29年度に最優秀賞を獲得。毎年のように入賞の実績があり、その編集活動や広報活動について視察研修を実施した。</p> <p>2 編集組織について 同町議会の議員定数は18名。村山市の議会だより編集委員会に相当する「議会広報常任委員会」は7名で構成されており、副議長と3つの常任委員会から2名ずつ選出している。</p> <p>3 議会だよりの編集活動について (1) 編集方針 議会の審議結果や活動を広報するだけでなく、議会だよりは中高生等に対する社会教育の材料となり得るものと捉え、議会と住民をつなぐ分かりやすい議会だよりの制作に努めていた。</p> <p>(2) 具体的な取り組み ①読み手側に立った広報 ・記事は議案の重要度に応じた配置とし、重要度の低い議案は一覧表にする。 ・最初の見開きのページにトップニュースを入れる。 ・簡単に住民にわかりやすい見出しを付ける。</p> <p>②余裕のある紙面づくり ・一般質問は、目安として見出しと写真で紙面の40%を使用したり、余白（白地）を十分に生かすなど、住民にとって読みやすい紙面づくりを心掛けている。</p> <p>③住民参加の広報 ・「いきいき活動」として、町内で活動している団体・サークル等を紹介する記事を連載し、議会に対する意見な</p>

どについても広報委員が自ら質問するインタビュー形式で取材を行っている。

- ・「住民の声」の連載では委員の輪番制で町民に原稿の作成を依頼している。

(3) 編集予算

同町の議会だよりはページ数が少ない時でも 22 ページ、多い時では 32 ページだが、30 年ほど同じ印刷業者に委託し、1 部あたりの印刷製本費は 20 円程度に抑えられているとのこと。令和 4 年度の発行経費は 14,000 部で約 150 万円。

4 総括

「住民により多く読まれる議会だよりにするためにはどうしたらいいか」を常に考え、議会だよりの編集に取り組む姿勢を学ぶことができた。議会での審議の様子は議事録のようなものが一番詳しく伝えられるが、それでは誰も読んでくれない。編集においては情報を多く伝えようとする、つい字数が多くなってしまいがちだが、余白を無駄とは考えずに写真もうまく使ってレイアウトすることで、手に取ってもらえる議会だよりを目指しているということだった。

また、広報委員が直接町民に取材して記事を担当するコーナーは広報委員にとってそれなりに負担も大きいですが、取材を通して町の事業や議会に対する住民の声を直接聴くことができる貴重な機会であるとの説明があった。議会だよりの編集活動が議会から住民への広報という側面だけでなく、住民の声を議会活動に反映させるといふ広聴活動も担っており、本市議会でも今後の参考にしていきたいと感じた。